

## 地域と生産者とJA広島市が一体となって食農教育活動

### 伴小学校



地域の小学校や保育園・幼稚園と地元農家、JA広島市などが協力して、子どもたちに農業を体験し学んでもらう活動を各地で行っています。

### 稲刈り

安佐南区の原田信昭さんは、毎年伴小学校の総合学習に協力し、米づくりの指導を行っています。今年は新型コロナウイルスの影響で、田植えや観察会は行えませんでした。10月1日には5年生215名が原田さんの圃場で、鎌を使った稲刈り体験を行いました。



また、安佐南区の下向町内会は、約40年前から伴東小学校と米づくりを行ってきました。今年も5年生74名が、町内会の森川石油店さんが所有する圃場で20日に稲刈りを体験。ウンカやイノシシの被害により倒伏した稲の説明を伴支店の沖野勝治営農指導員が行い、米づくりの大変さと食べ物のありがたさを感じながらの稲刈りとなりました。

### 伴東小学校



### イモ掘り

安芸区の矢野幼稚園では2年前の西日本豪雨災害で土砂に埋もれた土地を地域住民や保護者が整備し、

野菜づくりを行っています。10月20日には、矢野支店が苗を提供し6月に植え付けを行ったサツマイモの収穫を、石倉悠希営農指導員の指導を受けながら、園児32名が楽しみました。

### 矢野幼稚園



### 可部保育所



し、休耕田を活用して可部保育所の園児とサツマイモを栽培しています。10月29日には園児110名が、6月に植えたサツマイモのイモ掘りを体験。可部支店も藻塩レモン水・はっさく水を寄贈し応援しました。両園とも、例年は収穫後に焼いもやふかしいもなどを地元のみなさんと楽しんでいますが、今年は給食の食材や持ち帰って各家庭で味わうなどしました。



### 豊平小学校



### 地域の特産を学ぶ



### 川内小学校



北広島町の豊平小学校は、地域をあげて産地化に取り組むそばの栽培を、年間を通して総合の授業で学んでいます。10月20日には4年生24名が、小学校隣にある都志見原営農組合が管理する圃場で、コンバインでの刈り取りを見学。さらに前日の授業で手刈りしたそばを生産者とともに脱穀するなど、そばの収穫について学びました。同校では4年生で栽培を学び、5年生でそば打ちを体験するなど地域の特産への理解を深めています。

安佐南区の川内小学校では、JA YOUTH広島市佐東支部の盟友とともに、毎年3年生が地元の特産品広島菜について、種まきから漬物にするまでを学んでいます。今年も217名の児童が10月2日に播種した広島菜の苗を23日に定植。1月末には収穫した広島菜を小学校で荒漬けにし、中漬けを経て漬け上がった広島菜漬は給食などで食する予定です。